

2008年2月1日

NEDO 全学ゼミ「地球温暖化と経済学」講義感想文

受講登録学生 11名 うち論文提出学生10名

山口光恒

1、東京大学教養学部前期課程文科二類

いろいろと新鮮な話を聞けて、勉強になりました。特に政府の審議会や国際会議での体験談は、なかなか聞けない貴重なお話をしていただけたと思います。

また、ときどき当てて答えさせるという形は良かったです。自分自身、言いたいことがあっても、空気読んでしまって言えないことがよくあるので、逆に当てて欲しい時もあったぐらいなので。むしろ、もう少し当てる機会を増やしてもいいのではないのでしょうか。その方が、議論が活発になって楽しいと思います。

環境問題に関しては、小学校の自由研究の際に興味を持って以来、気にしている問題なのですが、いろいろな分野の問題が絡み合っており、さらにいろいろな立場の人々が話し合っているという点で、そう簡単に片付けられる簡単な話じゃないということがよくわかりました。順調にいけば、経済学部に行く予定ですが、経済を学ぶ上でも、環境問題への視点を忘れずに勉強してきたいと思います。また、自分の意見が堂々と主張できるように、いろいろな経験をし、学んでいきたいと思っています。数ヶ月の短い間でしたが、ありがとうございました。

2、一年理科一類

・レジュメを見ながらの授業であったので大変わかりやすく、予習・復習が出来てよかったです。今後もこのような授業形式でいいと思います。

- ・ 京都議定書に関するビデオ（NHKスペシャル）は大変わかりやすかったです。最初に見たほうが授業内容もよりいっそう理解しやすかったかもしれません。
- ・ 京都議定書・温暖化について、マスコミ、新聞では書いてないことが理解できてよかったです。

3、文科一類一年

この講義に対する率直な感想は、大変勉強になるすばらしいものだった。これまで温暖化対策は当然やらなければならないことであり、各国ができるだけの努力をするべきだと単純に考えてきた。しかし経済学的な視点からみれば、コストと効果を考えれば何でもやればいいものではないということ学んだ。物事を見る上で新たな視点が加わるということは、その事象をより多角的かつ正確に捉えることができるようになるため非常に有意義であると思う。また、地球温暖化対策の国際的な状況を深い部分まで知ることができた。これまでは京都議定書についての表面的な理解しかなく、アメリカの不参加などについても不満に思うだけで、なぜ参加しないのかというような本質にかかわることへの探究が足りなかった。物事にたいしてただ感情を抱くだけではそれ以上の進歩はないだろう。自分

の理想とする状況に近づけるにはどうすればいいか、それを自分なりに考えることの大切さもこの講義で学んだと思う。特筆すべきこととしては、やはり国際会議などへの出席経験が豊富な教授に学ぶということは、理論が机上の空論とならないため説得力があり、より現実的な考え方や知識が身につくことが良かったと思う。将来は省庁にはいって実際的な国家運営に関わっていきたいと考えているため、理想論だけを語るだけではなく現実的な考え方がやはり重要になると考えている。そういう意味では今回の講義は本当に高い意義を持つものであった。それに加えて、世界のエリートたちと間近で対面されてきた方だからこそわかる、日本を引っ張っていく者はこうでなければならないという話も非常に参考になり、深く心に刻まれた。これからも常にその言葉を胸に抱き続けて自身の戒めとしたいと思う。全体としてこの講義には非常に満足している。レジュメをもとにして説明もわかりやすかった。この講義を受講できたことを幸せに思うとともに、このような講義を提供して下さった教授に感謝したい。

4、理科一類

半年間という短い間でしたが密度の濃い刺激的な授業をありがとうございました。これからもこの問題の動きに注意を払って行きたいと思います。授業の方法についてですが、雑談で最前線の生き生きとした状況を交えながら徐々に理論などの授業に進んでいくというスタイルは受講生の興味を高めるよい方法だと思いました。今現在実際おこっていることだとわかり、新聞の環境面にも注意するようになります。基本的には今までの方法を踏襲するのが一番だと思います。せっかく10人前後のゼミなので、授業の何回かは机を移動させて生徒同士も会話しながらもう少しラフな感じで授業をするのも手だと思います。また、最終日のイタリアントマトでは、先生のお話を伺いながら、文系の科類の人とも意見交換でき大変刺激的でした。ぜひ次からも続けていってください。

5、教養学部文科I類1年

私が文系だったためか、授業のはじめの方でやった環境対策の理論的な説明については、あまりはっきりとは理解できないものが多かった。ただ、具体的な環境対策の効果や特徴については理解することができた。

私としては、温暖化対策のために世界の第一線で活躍されている方から生の情報を聞くことができたことが、非常に有益だった。新聞やテレビなどのメディアからは伝わってこない世界の現状、各国の思惑等は非常に興味深いものだった。今までは、NGOの活動等に対して胡散臭さを感じており、環境問題を毛嫌いしていたきらいがあったが、このゼミを受けて見方が変わった。環境政策の面白さに目覚めるとともに、環境問題に真剣に取り組もうと思うようになった。

6、教養学部二年

最初、経済学のグラフが出てくるところが難しかった。しかし、環境問題や、社会情勢、私たちの心理などを考慮した上で、あのグラフを考えることが楽しかった。ビデオを通し

て、ただ、環境を保全し、全人類が 持続的発展をする、という目的の為に、各国が協力することは難しいと感じた。力のバランスや、各国の利益、他国の協力の有無によっても、時刻の削減目標が影響を受けるという、まさに各国の国際関係の中でのやり取りが現れていた。各国の状況や利益を考えれば当然のことだとも知らされた。しかし、環境問題はまさに国境なき問題。差し迫る人類の 問題として、正しく状況を把握し、取り組んでいきたい。

7、理科1類1年

この「地球温暖化と経済学」の全学ゼミは、行きたい学部に進学するための点数には影響がないのにも関わらず1週間のなかで最も集中して聴講した講義であったと思います。その理由としては、地球温暖化問題を経済学的観点から見るという新鮮な切り口に加えて、山口先生の「生の」声が聞けるということが大きかったように思います。

講義の最初の15分ほど、最近行かれた会議や新聞を賑わせている旬のトピックについてお話を下さったのがとても楽しかったし、環境問題の最前線を垣間みることで非常に有意義でした。

僕は将来環境行政に携わる人間になりたいと思っています。現在政策を決定しておられる方々はどうしても大学の文系学部を卒業した方々が多く、政策決定において科学的なアプローチが軽視されているのではないかと考えているので、工学部に行って環境工学をみっちり学びたいと思います。また今回の授業で、環境問題と経済学（コストの問題）は切り離せない問題であると学んだので、経済学も学びたいと思いました。

山口先生の講義は、僕の将来に大いなる示唆を与えてくれる講義であったと思います。

来学期も全学ゼミをやられるということなので、もしその時間に授業が入っていなければまた履修しようかと真剣に考えているので、もしそうなったときはまたよろしくお願いします。

非常に短い間でしたがどうもありがとうございました。

8、農学部3年

私にとってこの授業は、単位が必要だったわけでもなく、聴講そのものを目的とした受講でした。半年間講義が終了した今、この講義をとってよかったと、とても満足しています。

農学部の授業もこの冬学期から始まり、温暖化に関する事柄も多く出てきましたが、この授業はそれらを別の視点から捉えるよいきっかけとなりました。今まで、新しい技術や将来のプランについて、そこまで懐疑的に考えた事はなく、多くのメディアのようにもつとやれやれと思っていましたが、今回、現実的に考えるよいきっかけになりました。こういった内容は、なかなか講義を聴いていても、メディアを探しても得にくく、貴重な機会でした。また、福田首相のダボス会談の内容をはじめ、私の中でのニュースの捉え方がかわりました。実際に起こっている事をリアルに知る事ができたという点でも、大変意味のあるものでした。

また、経済学の観点からの講義でしたが、ほとんど経済の知識が無い状態でも理解でき

るような講義スタイルも助かりました。この講義と平行して、農業経済学の授業も受講していましたが、内容のリンクもあり、経済学の学び始めとして、とても良い環境でした。また、経済学から見た地球温暖化自体、私にとっては全くの新境地で、新たな視点を養えたことも、この授業で得られた大きな成果です。

また、何よりも受講人数が少ない点がこの授業の効果を際立たせていたような気がします。大講堂でのパワーポイントによる講義と比較すると、講義の価値、効果は何倍にもなる気がします。半年間という時間の制約がとても残念です。

この講義には、国際会議での日本の現状など、ここでしか得られない情報をはじめ、今後の生かしていける事が満載でした。感謝しています。ありがとうございました。

9、文科二類1年

私自身は経済学部に進学しようと思っています。将来は経済的な視点で環境問題に対し有効なアプローチを行いたいと考えています。

その中で「環境対策をすると利潤を得られるビジネスモデル」の構築が出来ればよい、と考えています。「環境対策をすると利潤を得られる」とは、例えば、環境に配慮した商品がきちんと市場経済の中で消費されたり、植林をすることで政府による補助金などがなく植林した主体が利潤を獲得できる、ということである。

これからそういったことを私は学んでいきたいと思っています。

10、文科2類1年

冬学期が始まって履修を決める時期、進振りに重要な社会科学などの授業をまず選択し、最後になって時間割が埋まらなかった金曜5限について開講されている授業のシラバスに目を通してのときに知った授業がこの授業でした。そんな時間割をとりあえず埋めとこうという動機で出席し始めたこの授業でしたがすぐにのめりこんでいき、一週間の中で一番真剣に聞く講義となりました。なによりよかったのは少人数だったこと。そして授業の本筋の内容もタイムリーなものだったし、雑談も面白かったこと。私は文科2類でゆくゆくは経済学部に進学しようと考えていましたが、夏学期に取った経済の授業でミクロ経済の理論の話聞き、あまりに現実に適用できないだろう内容に少し失望していました。しかし例えばピグー税の回の講義で経済学は適切な課税の程度は教えてくれないが、課税をすることで市場の均衡点をコントロールできると教えてくれるということのように経済学の意義を発見することができたことも大きな収穫でした。残念なのは先生もおっしゃっていたように講義が半年間だけのもので、短いということです。興味を持てた内容だけだだけにもっと深めていきたくてku 梵C 掘・晴討 (ママ)

理解した上で実際に自分達で考えてみることもしたかったというのがあります。けれども総合的に見てこの講義には大変満足しています。どうもありがとうございました。